

諭吉に思いをはせる

中津市留守居町の国指定史跡「福沢諭吉旧居」で、中津地方文化財協議会(川島真人会長)主催の「福沢諭吉寺子屋塾」があった。普段は上がることでできない畳の間で児童が諭吉の業績や人となりを学んだ。



国指定史跡の福沢諭吉旧居で、諭吉の業績や人となりを学ぶ小学生ら＝中津市留守居町

中津の福沢旧居で寺子屋塾

小学生19人業績学ぶ

は立ち入りを禁止しているが、今回、特別に開放された。

市内や福岡県豊前市の小学1～6年生19人が参加。川島会長が講師となり、諭吉の生い立ちや海外への留学、慶応義塾創設など日本の近代化と日本人の思想に大きな影響を与えた足跡を紹介。「困難にあっても立派にやり遂げられることを身をもって示した」と述べた。

協議会の本徳照光理事が、諭吉が勉強部屋として使っていた蔵や併設する記念館を案内した。都留佑仁君(11)＝豊田小6年＝は「いろんな国に行ったことを知り、あらためてすごいなと感じた」と話した。

旧居内には4・5～9畳の和室が計4部屋あり、市教委社会教育課文化財室は諭吉の顕彰など活用方法としてふさわしい取り組みについては使用を受け付ける方針。問い合わせは同室(☎0979・22・1111)。

旧居は1803年建築の木造平屋建て。諭吉が青年期を過ごしたとされ、1971年に国史跡に指定された。家屋内の畳の間は通常

(直野剛志)